

(5) 東海



東海地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

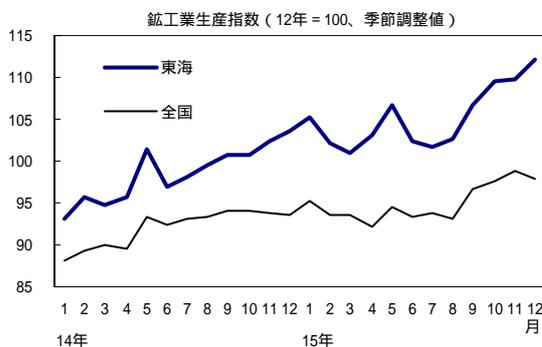
前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年11月)	今回(平成16年2月)	
景況判断	緩やかな改善がみられる	回復	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている	改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

輸送機械は、完成車の国内向けではコンパクトカーを中心に弱含んでいるものの、普通乗用車が増加している。輸出向けも引き続き高水準となっており、自動車全体としては堅調に推移している。なお、自動車部品も引き続き堅調に推移している。一般機械は、金属工作機械が国内向けの自動車関連を中心に堅調に推移しており、繊維機械では織機等に持ち直しの兆しがみられる。電気機械は、制御機器が自動車関連に加えて液晶・半導体関連向けに伸びている。窯業・土石は、ファインセラミックスが横ばいとなっているものの、陶磁器がタイルや飲食器を中心に引き続き低調に推移している。化学は、自動車部品原料等が引き続き高水準を維持しており、全体でも緩やかに増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
輸送機械	33.9	5.4	9.2	8.5	5.1
一般機械	11.3	0.4	3.3	3.9	3.4
電気機械	7.3	1.8	10.4	13.2	8.0
窯業・土石	6.1	0.9	1.1	1.5	0.2
化学	5.4	0.9	1.4	0.5	1.4
鉱工業	100.0	0.3	6.6	6.7	1.0

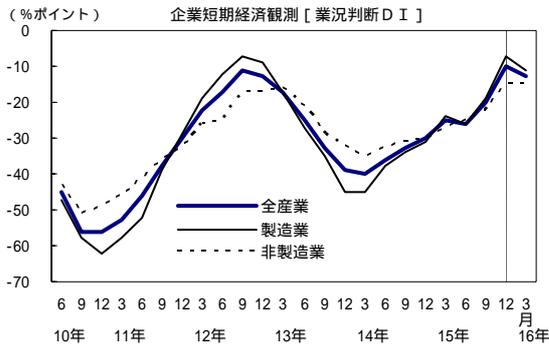
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10~12月期は速報値。

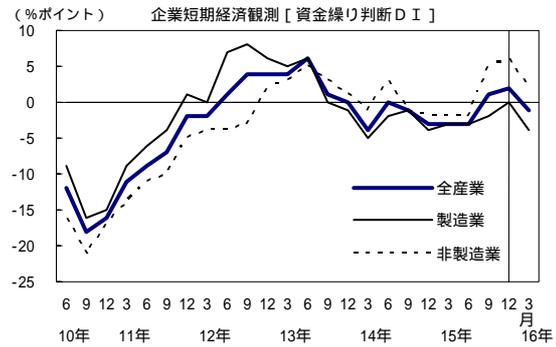
3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(備考) 平成15年12月の東海は速報値。

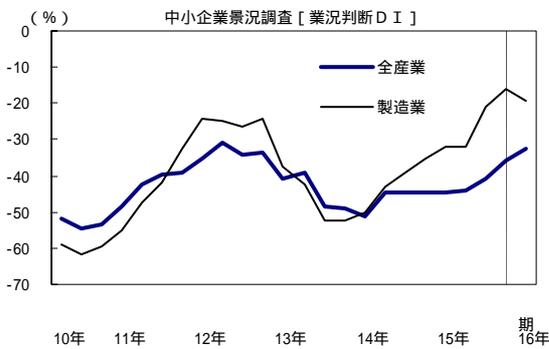
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。
 中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「特殊技能を持った中小企業では仕事があふれている。円が1ドル100円を切らなければ、この状況は継続する (その他非製造業 [ソフト開発])」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

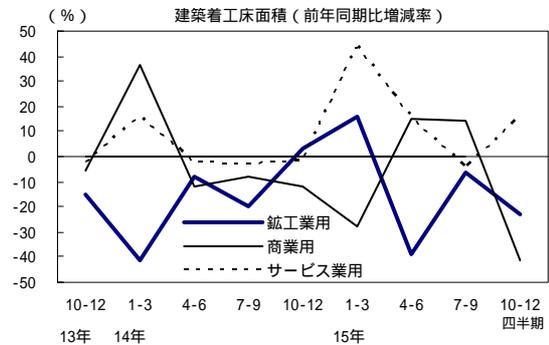
(3) 15年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	9.1	7.8 [9.5]
製造業	5.8	7.3 [9.5]
非製造業	12.0	8.3 [9.5]

(備考) [] は前回 (9月) 調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

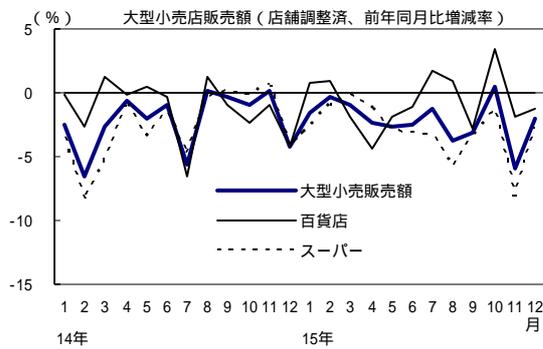
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月是一部百貨店の大規模増床効果等により衣料品、飲食料品がともに前年を上回り、全体でも前年を2か月ぶりに上回った。11月は気温が高めに推移したことから、主力の婦人・子供服が冬物等を中心に前年を下回り、全体でも前年を下回った。12月は婦人・子供服が前年を上回るなど衣料品が前年を上回ったものの、飲食料品が振るわず、2か月連続して前年を下回った。

なお、名古屋市内主要5百貨店の1月は初売りやセールが好調で、前年同月比4.0%増となっている。スーパーは、期間を通じて飲食料品が比較的底堅く推移したものの、婦人服を中心とした衣料品が、気温が高めに推移した11月に大きく前年を下回るなど、全体でも13か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

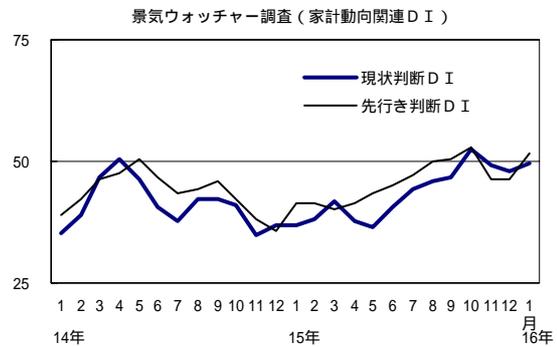
「ホテル向け弁当の販売量は上向きであるが、単価は低下している。百貨店向け弁当は価格、販売量とも増加傾向にあるが、日によって変動が激しい(その他飲食[仕出し])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.0	2.5	2.7	2.5
百貨店	0.2	2.5	0.2	0.1
スーパー	1.4	2.5	4.3	4.0
乗用車	7.3	4.1	1.8	3.6
景気ウォッチャー	39.0	38.3	45.7	49.9

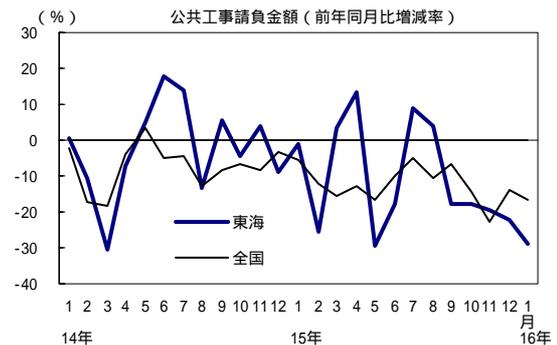
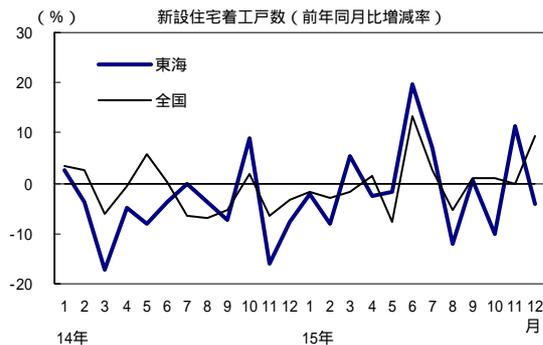
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。中部地区の値。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲が前年を上回ったものの、持家を中心に前年を下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

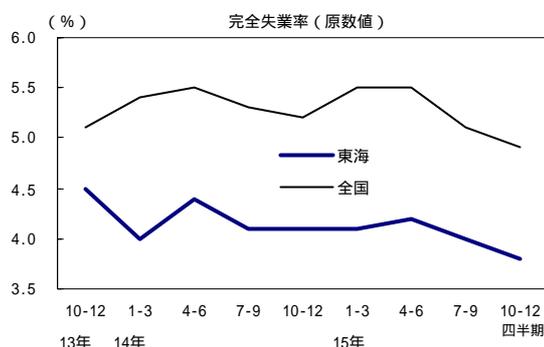
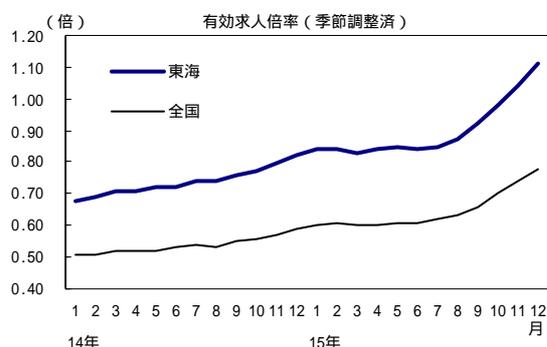


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は大きく上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

「ここ2～3年間求人申請がなかった小規模事業所や個人事業所からも求人申請が来ている(職業安定所)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	16年1月
倒産件数	453	407	350	336	105
(前年比)	1.5	12.7	25.7	19.4	40.3
負債総額	1,605	1,105	1,605	4,126	234
(前年比)	54.0	57.3	65.7	225.6	58.7



景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・気温低下が影響して、クリアランスセールは非常に好調である。また正月の福袋も前年以上に完売が早い。価格には相変わらず厳しいが、前年と比べると購買意欲は確実に高まっている(百貨店)

<先行き>

・求人数は相変わらず激増しており、今後愛知万博、中部国際空港関連の影響で雇用環境は更に良くなる(求人情報誌製作会社)

